

## 第6章 エラーコード表

### 1 項目チェック内容

#### (1) 道路現況総括台帳

項目名	新規・修正	削除
単位区分	1,2,3	不可
土木事務所・支所	存在する事務所コード・支所コードの組み合わせであること。	不可
路線番号	路線名コードに存在する路線番号(4桁)であること。	不可
ブロック	0以外の数字	不可
ユニット	数字	不可
分割番号	0~9	不可
市町村コード	リストボックス内に存在する市町村コードであること。	
大字コード	リストボックス内に存在する大字コードであること。	
現道・旧道区分	1,2,3	
上下線区分	1,2	9
一方通行区分	1,2	9
路線分割	数字	
有料・無料区分	1,2	
有料道路コード	有料道路コードに存在する番号であること。	チェックボックス
自歩道専用区分	1,2,3,A,B,C	9
自動車専用区分	1	9
地形区分	1,2,3,4	
区間延長	0以外の数字	
車道幅員	数字	
中央帯幅員	数字	
路肩(左)(右)	数字	
歩道等幅員(左)(右)	数字	
法面等幅員(左)(右)	数字	
舗装幅員	数字	
建設年次 元号	1,2,3,4	9
年	年号との関係により該当する数字(当年度まで)	
基本分類	1,3,5,7	9
箇所区分	1,3,5	9
区間状況	1,3,5,6,8,9	
改良・未改良	1,2,3,5	9
車線数	0~9,A,B,C,D,E,F,G,H	
歩道等種別(左)(右)	1,2,3,4	9

項目名	新規・修正	削除
曲線半径	数字	
縦断勾配	数字	
交差箇所 道路	数字	
” 鉄道(民)	数字	
” 鉄道(専)	数字	
立体横断	1,2,3,5,6,7	9
バス路線	1,2,3,4,6	9
異常気象時 通行規制区間	1,2,3,4,6	9
地震緊急輸送路	1,3,6	9
都市計画・市街化区域	1,2,3,4	9
照明施設数	数字	
側溝種類	10,21,29,30,90	99
法面種類		
落石防止柵工	1	9
金網設置工	1,2,3,	9
吹付工/法枠工	1,2,3,4,5,8,A,,B,C,D,E,F	9
安全施設種類	1,2,3,8	9
舗装変更区分	1,2,3	9
” 路面種別	1,2,3,4,5,6,7,8,A,B,C	9
” 元号	1,2,3,4	9
” 年	年号との関係により該当する数字(当年度まで)	
前回交通量区分	1,2,3,4,5,6,7	チェックボックス
今回交通量区分	1,2,3,4,5,6,7	チェックボックス
観測地点	道路交通センサスの調査単位区間番号(11桁)を入力する。 該当がない場合は”9999999999”を入力する。	チェックボックス
歩道形式 左	1,2,3	9
歩道形式 右	1,2,3	9
中央帯 施設	1	9
植樹内容	1,2,3	9
歩道等 施設	1,3	9
植樹内容	1,2,3	9
路線接続 県コード	14,19,20,22,23	99
” 市町村コード	リストボックス内に存在する市町村コードであること。	999
” 事務所	存在する事務所コードであること。	99
” 支所	存在する支所コードであること。	9
” 路線番号	路線名コードに存在する路線番号(4桁)であること。	チェックボックス

項目名	新規・修正	削除
" ブロック番号	数字	チェックボックス
" 路線分割	0~9	チェックボックス
ブロック重用 路線番号	路線名コードに存在する路線番号（4桁）であること。	チェックボックス
" ブロック	数字	チェックボックス
占用物件 電気	1,2,8	9
" 電話	1	9
" 有線放送	1	9
" 上水道	1	9
" 下水道	1	9
" ガス	1	9
" 光ケーブル	1	9
" その他	1,2,3,8	9
" キャブ	1	9
" ミニキャブ	1	9
" CCBOX	1	9
" 情報BOX	1	9
" 自治体管路	1	9
" 共同溝	1	9

( 2 ) 橋梁原票

項目名	新規・修正	削除
橋梁番号	番号（5桁）	
橋梁名（カタカナ）	文字	
橋梁名（漢字）	文字	
箇所名（カタカナ）	文字	
箇所名（漢字）	文字	
橋梁種別	1,4,5	
路面位置	1,2,3,4	9（のみ可）
使用材料	S,K,P,M,W,T,Z	9（のみ可）
構造形式	B,G,GI,CGI,GH,CGH,GB,CGB,GT,T,A,L,LO,R,CS,CSI,CST,SU,SUI,SUB,SUT,PB,BP,BK,PCB,SGI,HS,TGB,CB,BGT,Z	999（のみ可）
床版材料	S,K,P,Z,C	9（のみ可）
下部基礎	1,2,3,4,5,6,7,8,P,S,K,R,Z	9（のみ可）
下部構造	1,2,3,4,5,6,7,8,W,C,E,K,R,T,I,Z	9（のみ可）

項目名	新規・修正	削除
		可)
適用示方書類	215,314,331,339,342,347,348,353,355,402,406,408,414	9999
橋格	1,2,3,8	9
耐荷荷重	数字	0
現況	1,2,3	
通行制限内容	1,2,3	9
最大支間長	数字	0
径間数	数字	0
検査路	1	9
他域データ 県	14,19,20,22,23	99
” 事務所	存在する事務所コードであること。	99
” 市町村	リストボックス内に存在する市町村コードであること。	9999
” 路線番号	路線名コードに存在する路線番号(4桁)であること。	チェックボックス
” 路線分割	0~9	チェックボックス
” 他域延長	数字	チェックボックス
” 管理者	14,19,20,22,23	99
河川名コード	リストボックス内に存在する河川名コードであること。	99
道路名コード	リストボックス内に存在する道路名コードであること。	9999
鉄道事業者コード	リストボックス内に存在する鉄道事業者コードであること。	999
鉄道線名コード	リストボックス内に存在する鉄道線名コードであること。	999
塗装面積	数字	
変更区分	1,2,3	
塗装種類	A,B,C,K,T	9
塗装年次 元号	1,2,3,4	9
年	年号との関係により該当する数字(当年度まで)	
補修年度 元号	1,2,3,4	9
年	年号との関係により該当する数字(当年度まで)	
落橋防止 橋座拡幅	1	9
落橋防止 変位制限構造	1	9
落橋防止 落橋防止構造	1	9
落橋防止 その他	1	9
橋脚補強巻立	C,P,R,S,Z	9
橋脚補強時期 元号	1,2,3,4	9
年	年号との関係により該当する数字(当年度まで)	
橋脚補強適用基準	407,408,414	999

## (3) トンネル原票

項目名	新規・修正	削除
トンネル番号	番号(4桁)	
トンネル名(カタカナ)	文字	
トンネル名(漢字)	文字	
箇所名(カタカナ)	文字	
箇所名(漢字)	文字	
トンネル分類	1~7	
有効高	数字	
有効幅員	数字	
有効面積	数字	
壁面区分	1~7	
現況	1,2,3	
他域データ 県	14,19,20,22,23	99
” 事務所	存在する事務所コードであること。	99
” 市町村	リストボックス内に存在する市町村コードであること。	9999
” 路線番号	路線名コードに存在する路線番号(4桁)であること。	チェックボックス
” 路線分割	0~9	チェックボックス
” 他域延長	数字	チェックボックス
” 管理者	14,19,20,22,23	99
照明施設	1~6	9
換気施設	1~7	9
非常電話	1	9
押しボタン式 通報装置	1	9
火災検知器	1	9
警報表示板	1	9
点滅灯(警告灯)	1	9
音信号発生機	1	9
消火器	1	9
消火栓	1	9
水噴霧装置	1,2	9
誘導表示板	1	9
排煙装置	1	9
避難通路	1	9
非常用電源装置	1	9
給水栓	1	9
無線通信補助施設	1	9
ラジオ再放送設備	1	9

項目名	新規・修正	削除
拡声装置	1	9
監視装置	1	9
トフィックカウンター	1	9
簡易 CO 濃度計	1	9
CO 濃度計	1	9
トンネル等級	D,C,B,A,AA	99

( 4 ) 踏切原票

項目名	新規・修正	削除
踏切番号	番号 ( 4 桁 )	
踏切名 ( カタカナ )	文字	
踏切名 ( 漢字 )	文字	
箇所名 ( カタカナ )	文字	
箇所名 ( 漢字 )	文字	
鉄道事業者名	リストボックス内に存在する鉄道事業者コードであること。	999
鉄道線名	リストボックス内に存在する鉄道線名コードであること。	999
単線・複線区分	1,2	
踏切道種別	1~4	
歩道等施設	1~9	99
幅員差 起点 ( + , - )	1,2	9
幅員差 起点 ( 長さ )	数字	
幅員差 終点 ( + , - )	1,2	9
幅員差 終点 ( 長さ )	数字	
交差角度	1~90	
道路勾配 起点 ( + , - )	1,2	9
道路勾配 起点 ( % )	1~20	
道路勾配 終点 ( + , - )	1,2	9
道路勾配 終点 ( % )	1~20	
見通し距離 起点 左	1~7	
見通し距離 起点 右	1~7	
見通し距離 終点 左	1~7	
見通し距離 終点 右	1~7	
交差点距離 起点	1~50	
交差点距離 終点	1~50	
遮断時間	1~999	

2 関連チェック 1

必須項目  
(初期値以外)

入力不要 ×  
(初期値)

どちらでもよい

記入項目	事務所	支所	路線番号	ブロック	ユニット	分割番号	市町村コード	大字コード	現道・旧道コード	上下線分離	一方通行	路線分割	有料・無料区分	有料道路コード	自歩道専用区分	自動車専用区分	地形区分	区間延長	車道
修正項目																			
未重用																			
重用	ブロック重用						×		×	×									×
用	ユニット重用																		

記入項目	中央帯	路肩	歩道等	法面等	舗装幅員	建設年次・元号	〃・年	基本分類	箇所区分	区間状況	改良・未改良	車線数	歩道等種別	曲線半径	縦断勾配	交差箇所・道路	〃・民鉄	〃・専鉄	立体横断施設
修正項目																			
未重用																			
重用	ブロック重用	×	×	×	×	×	×	×	×		×	×	×	×	×	×	×	×	×
用	ユニット重用																		

必須項目  
(初期値以外)

入力不要 ×  
(初期値)

どちらでもよい

記入項目	バス路線	異常気象	緊急輸送路	都市計画	照明施設数	路側状況・路側	” ・ 路面	” ・ 安全	舗装・路面種別	” ・ 年号	” ・ 年	前回交通量	今回交通量	観測地点番号	歩道形式	中央植樹帯・施設	” ・ 内容	歩道植樹・施設	” ・ 内容
修正項目																			
未重用																			
重	ブロック重用	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
用	ユニット重用																		

記入項目	路線接続・起点	” ・ 終点	ブロック重用 路線番号	ブロック重用 ブロック	占用物件・電気	” ・ 電話	” ・ 有線	” ・ 上水	” ・ 下水	” ・ ガス	” ・ その他	” ・ キャブ	” ・ ミニキャブ	” ・ C C B O X	” ・ 自治体管路	” ・ 情報 B O X	” ・ 共同溝
修正項目																	
未重用			×	×													
重	ブロック重用				×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
用	ユニット重用		×	×													

### 3 関連チェック 2

#### (1) 車道幅員、中央帯、路肩、車線

- ・車道幅員 = ZERO のとき  
中央帯、路肩、車線はすべて ZERO である。
- ・車道幅員 > ZERO のとき  
自歩道専用区分 1、2、3 ならば (独立専用自歩道ではない)  
車線数 ZERO である。

#### (2) 基本分類によるチェック

- ・橋梁 (3) のとき
  - A. 区間延長 2.0 である。
  - B. 法面幅員 (左) = ZERO または (右) = ZERO である。
- ・トンネル (5) のとき
  - A. 区間延長 1.0 である。
  - B. 法面幅員 (左) = ZERO かつ (右) = ZERO である。
- ・踏切 (7) のとき
  - A. 区間延長 4.8 である。
  - B. 法面幅員 (左) = ZERO かつ (右) = ZERO である。
  - C. 車道幅員 0.50 である。
  - D. 交差箇所の民鉄 + 専鉄 > ZERO である。

#### (3) 区間状況によるチェック

- ・未重用 (1) のとき
  - A. 車道幅員  
自歩道専用区分 A、B、C のとき 車道幅員 > ZERO である。  
自歩道専用区分 = A、B、C のとき 車道幅員 = ZERO である。
  - B. 改良、未改良  
分割番号 = 0、1 のとき 改良、未改良 SPACE である。  
分割番号 0、1 のとき 改良、未改良 = SPACE である。
  - C. 路面種別 SPACE である。
  - D. 路肩幅員、基本分類
    - D-1) 分割番号 = ZERO のとき
      - ・基本分類 = 1、7 のとき 路肩 (左) 0.50 かつ (右) 0.50 である。
      - ・基本分類 = 3、5 のとき 路肩 (左) 0.25 かつ (右) 0.25 である。
      - ・基本分類 = SPACE のときエラーである。
    - D-2) 分割番号 ZERO のとき
      - ・自歩道専用区分 A、B、C のとき 路肩 (左) + 路肩 (右) 0.50 である。
- ・重用 (3) のとき  
区間延長 > ZERO である。
- ・交通不能 (8) のとき
  - A. 車道幅員  
自歩道専用区分 A、B、C のとき 車道幅員 > ZERO である。  
自歩道専用区分 = A、B、C のとき 車道幅員 = ZERO である。
  - B. 改良、未改良  
分割番号 = 0、1 のとき 改良、未改良 SPACE である。  
分割番号 0、1 のとき 改良、未改良 = SPACE である。
  - C. 路面種別 SPACE である。
  - D. 路肩番号の頭 1 桁 = 0、1、3 である。

(4) 路面種別のチェック

- ・ 区間状況 3、6 のときのみ行う。

基本分類 = 7 のとき

路面種別 = 1 ~ 6、A、B、C

基本分類 = 1、3、5 のとき

路面種別 = 1 ~ 4、7、8、A、B、C

(5) 舗装年度のチェック (舗装年度 (1) についてのみ行う)

- ・ 路面種別 = 1 ~ 7、A、B、C のとき

舗装年度、年号 SPACE かつ舗装年度、年号 ZERO である

- ・ 路面種別 = 8 のとき

A . 舗装年度、年号 SPACE かつ舗装年度、年号 ZERO ならば基本分類 = 3 である。

B . 舗装年度、年号 = SPACE かつ舗装年度、年号 = ZERO は OK である。

(6) 舗装年度、建設年次のチェック

- ・ 基本分類 = 3、5 のとき

当年度 舗装年度、建設年次

- ・ 基本分類 = 1、7 のとき

前年度 舗装年度、建設年次

- ・ 基本分類 = 3 かつ区間延長 14.5 かつ区間状況 3、5、6 ならば、各年号 SPACE である。

- ・ 基本分類 = 5 かつ区間状況 3、5、6 ならば、各年号 SPACE である。

(7) 建設年次と区間状況

- ・ 区間状況 = 1、8 のとき 建設年次 SPACE である。

(8) 曲率半径と区間状況

- ・ 曲率半径 ZERO のとき 区間状況 = 1、8 である。

(9) 縦断勾配と区間状況

- ・ 縦断勾配 ZERO のとき 区間状況 = 1、8 である。

(10) 路側状況 (法面) と法面幅員

- ・ 路側状況 (左) (右) 各々の法面状況 SPACE のとき

路側状況 (左) (右) 各々 > ZERO である

(路側状況 (左) (右) 各々 > ZERO で法面状況 = SPACE はエラーでない)

(11) 道路交差と基本分類

- ・ 道路との交差数 ZERO のとき 基本分類 = 1、5 である。

(12) 鉄道交差と基本分類

- ・ 鉄道との交差数 ZERO のとき 基本分類 = 1、3、7 である。

(13) 立体横断施設と基本分類

- ・ 立体横断施設 SPACE のとき 基本分類 = 1、3 である。

(14) 中央植樹帯施設と中央帯幅員

- ・ 中央植樹帯施設 SPACE のとき 中央帯幅員 1.00 である。

- (15) 歩道等植樹帯施設と歩道等幅員
- ・歩道等植樹帯施設(左)(右)各々 SPACE のとき  
歩道等幅員(左)(右)各々 0.75 である。
- (16) 歩道等種別と歩道等幅員
- ・歩道等種別(左)(右)各々 = SPACE のとき  
歩道等幅員(左)(右)各々 = ZERO である。
  - ・歩道等種別(左)(右)各々 SPACE のとき  
歩道等幅員(左)(右)各々 ZERO である。
- (17) 独立専用自歩道チェック
- ・自歩道専用区分 = 1、2、3 または路線番号の頭 1 桁 = 4 のとき
    - A . 路線番号の頭 1 桁 = 4 かつ自歩道専用区分 = 1、2、3 である。
    - B . 車道幅員 0.75 (区間状況 = 3 を除く)。
    - C . 前回、今回交通量はともに SPACE である。
- (18) 今回交通量
- ・自歩道専用区分 1、2、3 または区間状況 5、6、8、9 のとき  
今回交通量 SPACE である。
- (19) 箇所区分、区間状況、基本分類
- ・橋梁、トンネル箇所区分 SPACE かつ区間状況 3 のとき 基本分類 = 3、5 である。
- (20) 区間状況、大字コード
- ・区間状況 = 1、8 のとき 大字コード SPACE である。
- (21) 占用物件、区間状況
- ・占用物件欄の各項目のうち、ひとつでも SPACE であった場合  
区間状況 = 1、8 である。
- (22) 事務所、市町
- ・KEY 部の事務所コードと市町の対応が取れているかどうか作成要領のコード表でチェックする
- (23) 有料道路のチェック
- A . 現道・旧道区分 = 1、3 である。
  - B . 区間状況 = 1、3 である。
  - C . 路線番号 = 0136、0150、0362、0414、1004、1012、3323 である。
- (24) 路線接続のチェック(起点、終点それぞれチェックする)
- ・県コード = 22 のとき
    - A . 事務所、支所 SPACE であること。
    - B . 事務所、支所、市町コードは作成要領のコード中に存在し、さらに市町、事務所、支所の対応がとれていること。
    - C . 路線接続の市町コードは当該ユニットの市町コードと異なること。
    - D . 路線番号は、路線名漢字コードファイル中に存在するか “0052” “0246” であること。
    - E . ブロックは ZERO 以外の数字であること。ただし、路線が “0052” “0246” は除く。

- ・県コード = SPACE のとき
  - A . 路線接続の市町、事務所、支所、路線番号 = SPACE であること。
  - B . 路線接続のブロック、路線分割 = ZERO であること。
- ・県コード 22、SPACE のとき
  - A . 路線接続の事務所、支所 = SPACE であること。
  - B . 県コード ( “ 22 ” )、当該ユニットの市町コード、KEY 部の路線番号と路線接続の県、市町コード、路線番号が作成要領のコード表に存在し、かつ、対応がとれていること。
  - C . 路線接続のブロック、分割番号 = ZERO であること。

(25) 舗装年度

- ・舗装年度 ( 1 ) > 舗装年度 ( 2 ) > 舗装年度 ( 3 ) である。

(26) 有料無料区分、有料道路コード

- A . 有料無料区分 = 1 のとき 有料道路コード = SPACE である。
- B . 有料無料区分 = 2 のとき 有料道路コード SPACE である。

(27) 自歩道専用、自動車専用コード

- ・自歩道専用 SPACE かつ自動車専用 SPACE はエラーである。

(28) ブロック重用

- ・ブロック重用レコードのとき
  - A . 区間状況 = 3 である。
  - B . 被重用ブロック = ZERO ならば被重用路線は 0001、0052、0138、0139、0246 のうちいずれかである。

(29) 箇所区分、路線接続

- ・橋梁、トンネル箇所区分 = 3、5 のとき 路線接続の起点、終点どちらにもデータがないとき ( 初期値のとき ) エラーである。

(30) 自歩道専用、基本分類

- ・自歩道専用区分 = A、B、C のとき 基本分類 = 3、5 である。